



臺北松山機場(台北松山空港)

日本全国 あちこち探索というタイトルとは裏腹に、今回はちょっとだけ日本を離れて台湾に向かいます。台湾へは羽田から出発できて、peach航空を使えば弾丸スペシャル(日帰り)という若者にしかできない旅行が往復7,000円、最近では燃油サーチャージが無料なのも嬉しい限りです。

しかしながら台湾旅行は初めてで、土地勘も全く無いので素人でも安心できるホテルとセットの旅行ツアーを利用することにします。それでもホテルを三徳大飯店にグレードアップした2泊3日の料金が32,800円、ホテルを指定しなければ、台北市内観光と「鼎泰豊」での小籠包ランチが付いて24,800円という激安なお値段です。

台北空港(松山)への到着は現地時間の10:00、ホテルまで送迎してもらった後、最初に向かったのは神々が大集合すると云われる「[龍山寺](#)」(ろんさんすー)。まずは、健康で台湾観光に来られたことを感謝したいと思います。台湾の神様のお祈り方法はお線香を頭上に掲げ、自分の名前、住所、生年月日、職業などをはっきり伝えて三度拝礼するのだそうです。実際やってみれば、自己紹介するのに精一杯で本来のお願い事をすっかり忘れてしまいました。

参拝後、地図が詳しい旅行雑誌「歩く台北」を携(たずさ)えて向かったのは龍山寺のすぐ近くにある「[艦舩夜市](#)」(別名:廣州街観光夜市)。夕暮れともなれば多くに屋台がどこからとも無くやってきて、大変賑(にぎ)わう場所らしいです。その一角にあるのが「龍都冰菓專業家」(ロンドゥー ピングォチュアンイェジア)というお店、無敵という冠を授けられた「無敵芒果冰」と云うマンゴーかき氷がとても美味しいと云う評判です。

目指すお店はすぐに見つかりました。さっそく店員に「無敵芒果冰」と書いたメモを手渡すも、マンゴーの最盛期はこれからだということで販売していません。結局店員さんに勧められるまま、豆などの見知らぬ具材がたくさん乗ったかき氷「[八寶冰](#)」65元を頂くことになりました。

この艦舩夜市の近くにあるのが「[華西街觀光夜市](#)」。明るい時間に散策しても怪しい雰囲気ぷんぷんですが、そもそも龍山寺付近は町全体が怪しいエリアであって、夜は一人で歩いていけないと注意されていた商店街でした。



「龍山寺」



龍都冰菓專業家の「八寶冰」



夕暮れの九份

台湾初日の夕方は「九份」(きゅうふん/ジォウフェン)に向かいます。計画では、台北車駅15:54発の台湾鉄路(TR A)に乗り込んで、瑞芳駅(ルイファン)で788系統か1062系統のバスに乗り換える予定です。もう一つは台北市内の忠孝復興駅前から直接1062系統のバスで行く方法、料金は95元(約317円)で最も一般的。帰りの終バスは21:30ぐらいまでやっていて20分~30分程度の頻度で運行している模様です。[\[バス路線図\]](#) [\[時刻表\]](#)



夕暮れの九份

結局利用したのはバス。台湾鉄路(臺灣鐵路)の特急電車(自強号)にも魅力を感じていたのですが、右も左も分らない状況だったので、最も無難な方法を選択してしまいました。

九份は、かつて金鉱山ただただあって山の中、バスが高速道路を降りて瑞芳駅を過ぎたあたりから、曲がりくねった道はどんどん狭くなってきて上り坂も急になってきます。九份に到着したのは17時前、台北から1時間半程の道のりでした。

まずは九戸茶語(チウフーチャーユイ)で、軽く小籠包でも頂きながら、日が暮れるのを待つことにします。窓の下には石畳の階段を行き交う人の群れが見え、北側のベランダからは[深澳漁港](#)の灯が望めます。

飲茶を頂いている内に、いつの間にか夜のとぼりがおりてきて、軒先のいたるところに吊るされた幾つもの赤い提灯が輝きを増してきました。

目の前には、我こそは「千と千尋の神隠し」"湯婆婆(ゆばーば)湯屋"のモデルであると自負する阿妹茶酒館(アーメイチャージョウグアン)。入り口には大胆にも「湯婆婆の屋敷」という看板まで掲げられています。

その向かい側のお店が海悦楼茶坊ですが、こちらのお店のベランダや入り口は阿妹茶酒館を写真に収めるためのベストスポットとなっていて、違った意味で多くの観光客に人気です。

豎崎路(スーチールー)の階段を上ったところにあるのが、「[基山街](#)」と云う商店街。商店街の入り口はセブンイレブンが目印です。辺りに漂う異様な匂いは臭豆腐、ここも数ある観光夜市同様に台湾独特の活気に溢れています。

初めての台湾、一日目の夜はまだまだ終わる訳にはいきません。九份から台北に戻ったら、「[士林\(シーリン\)夜市](#)」に直行します。ここは台北最大の夜市と云う事で、安全面でも比較的整備された夜市のようです。食べ物屋さんはもちろん、お土産屋さんやゲーム屋台も沢山出ていて、台湾初心者にはどこから手を付けて良いのか分かりません。



忠烈祠 衛兵交代式

二日目は、ツアー主催の台北市内観光に付き合います。最初に向かうのは「忠烈祠」、衛兵の交代式を見るためです。この儀式に選ばれる兵士は優秀で品行方正が絶対条件、しかも身長175cm~195cm、体重65kg前後のイケメン揃いです。

その後は、故宮博物館や士林官邸などのメジャーな所を案内されます。お昼は、小籠包が美味しいことで有名な「鼎泰豊」(ディンタイフォン)。このお店はニューヨークタイムズ紙で「世界の人気レストラン10店」にも選ばれたことのある名店で、小籠包の代名詞となっています。とても安価な旅行ツアーでありながら、どうしてここまでサービス旺盛なのかと思えば、お土産屋さんにもしっかり付き合っているからなのですが、それにしても旅行代理店のコストダウンの取り組みには頭が下がります。

夕方になり、市内観光から開放された後が本領発揮の出番です。今日の夜は、寧夏夜市(にんしゃーいえすー)と西門(しーめん)界隈を探索することに決めました。

寧夏夜市へはMRT雙蓮駅を降りて民生西路を西に進みます。にぎやかな台湾らしい活気を感じたらそこが寧夏夜市、夕暮れともなるとどこからともなく屋台が現れ車道を埋め尽くします。ここは怪しさを感じさせない、ちょうどお祭りに繰り出す屋台のようで、台湾の人にとっては毎日がお祭り気分なのだろうと思います。

寧夏夜市の通りを抜けたところが五叉路の中央に丸い建物のある台北円環です。ちなみにパリの凱旋門は12叉路になっていますが、日本での最高はおそらく東京江戸川区「菅原交差点」の11叉路。しかしながら実質的に車が双方向で交差するのは5本であって、実際に通行してもそれほど違和感は感じません。

そこから歩いて向かうのは、「[西門](#)」(しーめん)です。西門は台北の原宿とも称される若者に人気の繁華街ですが、最初に飛び込んできたのは、佐々木希の大きな看板でした。佐々木希といえば、桐谷美玲や石原さとみとともに「世界で最も美しい顔100人」の常連ですが、この中にAKB48の島崎遥香が食い込んでいるのは嬉しい限りです。ところで、島崎遥香のベスト100入りは写真集「[ぱるる、困る。](#)」の発売からで、この選定に関わる人たちはかなりのオタクだろうと推測します。



[寧夏夜市\(にんしゃーいえすー\)](#)



[台北の原宿「西門」](#)



[「ぱるる、困る。」](#)



台北大橋東詰付近

初めて台湾に来て、最初に驚いたのは街を走るバイクの多さでした。ほとんどがスクータータイプの2輪車で、信号が青に変わった瞬間、街全体がバイクの轟音に包まれます。

バイクの走る様子を見たくて訪れたのは、[台北大橋の東詰](#)。この橋の側道は遅い車(機慢車)専用になっていて、バイクがひっきりなしに走ってきます。これらのバイクが信号で止まると道全体がバイクで溢れ、信号が青になった瞬間の壮絶な光景は台湾100景に推薦したいぐらいです。

この橋のたもとから川沿いに南に伸びる台北最古の間屋街が「迪化街」(ディーホアジエ)。建物の半数が1950年以前に建設された様々な様式の歴史的建築物と云う事で、レトロな街並みが大きな魅力となっています。

最初に目に付いたのは立派なレンガ作りの「[亭仔脚](#)」(ディンアカ)。亭仔脚とは、歩道の上に店の2階を迫(せり)り出させて作ったアーケードのことで、迪化街のものは特に綺麗で立派です。途中には、これまたレトロな景観を守りながら改装された閩南(ミンナン)様式の[消防署](#)。道に並んで建つ建物の正面デザインは年代ごとに少しずつ異なっていて、建築様式の知識が僅かでもあれば、迪化街散策はもっと楽しいだろうと思います。



迪化街の「亭仔脚」(ディンアカ)

迪化街の「[永樂市場](#)」へ近づくにつれ、徐々にお店に活気が出始めます。周辺には乾物屋が多いようで、どのお店を覗いても干椎茸(ほしいたけ)の袋が山積みです。

先ほど話題にした亭仔脚も、お店の商品が置かれていたり飲食用のテーブルが並べられていて、ほとんど真っ直ぐ歩けません。一方、永樂市場の中には手芸用の布を扱う布市場があって、ここはカラフルな布切れで溢れています。



「霞海城隍廟」(チョンホアンミヤオ)

永樂市場のすぐ手前にあるのが「[霞海城隍廟](#)」(チョンホアンミヤオ)という寺院で、アジア最強の縁結びの神を祀(まつ)るパワースポットです。縁結びを担当するのは「月下老人」、中国の故事「続幽怪録」によれば、結婚させる男女の足を赤い糸で結ぶのがお役目の模様です。

ちなみにこのお寺には、他にも600を超える神々が祀られていて、どんなお願い事をして、誰かがしっかり担当してくれると思います。